29156
N918a

025156-000-9

291.56-N918a

洞津みやげ　一名，津名勝図志

野間　朝次郎／著

M28
ADC-2541

城南外史閑海嶠逸人著
謙堂居士畫

洞津美之藝

一名津名勝圖志

堅周氏藏梓

223995

国立国会
26.2-1
図書館

江上數

三重縣知事成川君題字

序

明治丁未立夏

堆碧山房主人

題

敘

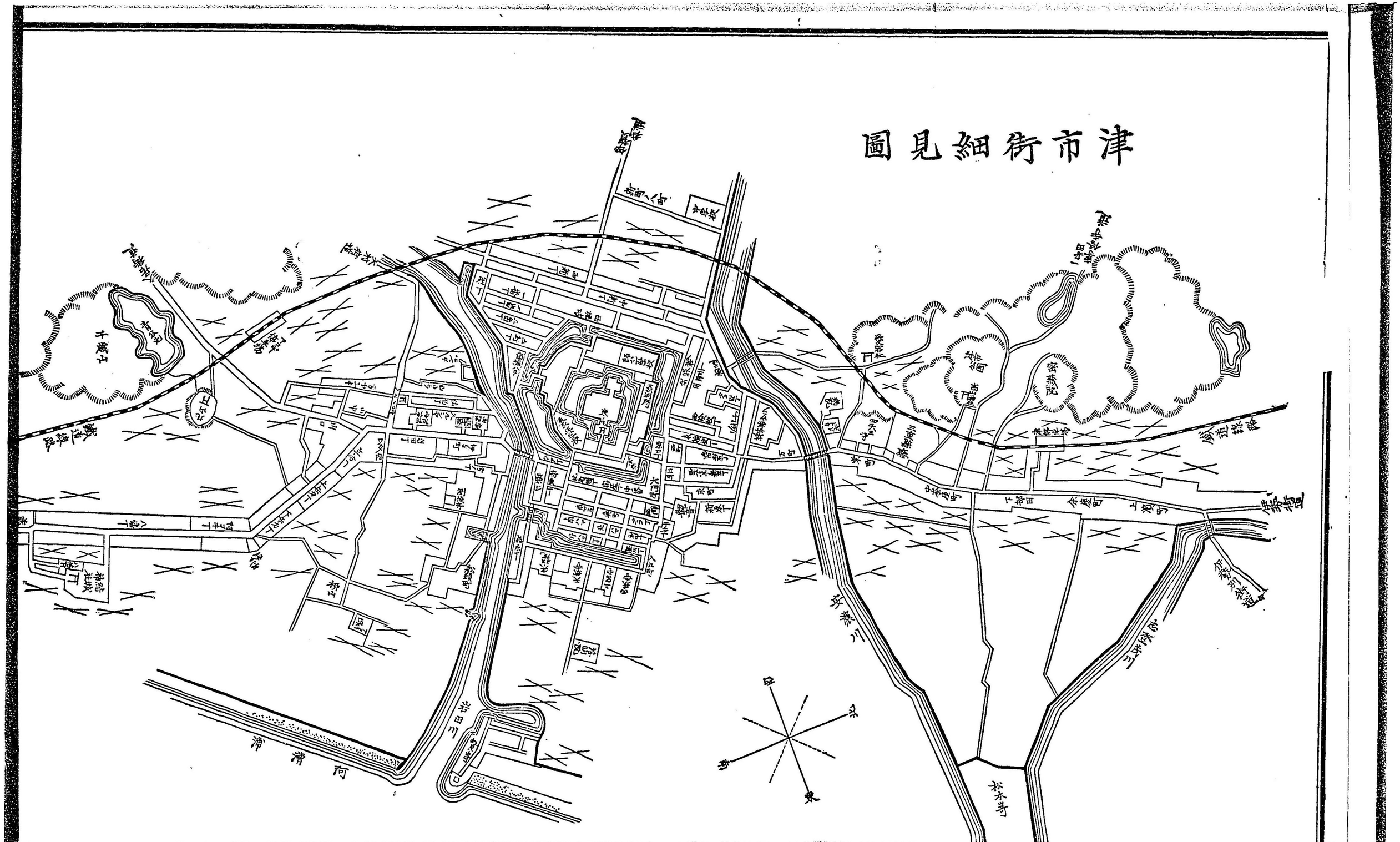
我阿濃津爲三津之一。夙著於海外。地形雄壯。古稱重鎭。是以江戶幕府特封藤堂氏。大政復古。永奠縣治。而山川秀傑。士女便嬛。街衢之修靚。生齒之蕃滋。物貨之殷阜。其繁華甲於諸州。俚謠之所唱伊勢以津勝者。信不誣矣。及迄今世。交道丕闡。舟車四通。其盛有軼昔日焉。凡通邑名都佳麗之地。皆莫不有前

人之紀述。獨我津則寂焉闕如。唯往歲津阪翁有洞津竹枝之撰。詞林傳誦焉。而文字高古。或不適通俗之好。屬者弟野間朝次郎著此編。將鋟於板。請余校閱幷序。披而覩之。自神宇佛刹。名區勝地。至閭閻之沿革。肆鄽之興衰。凡本土之事蹟。殫收載之。一覽瞭然。錄以國字。童蒙婦女猶可讀。間挿入畫圖。有銘辭。有詩賦。有國風俳句。又可以供騷人韻士之誦讀。命曰洞津美也。秋。美也。秋之爲言土產也。土宜也。若夫四方之過客。不問雅之與俗。來遊我津者。購此編以充歸遺之品。庶幾乎有入滄海拾遺珠之想矣。

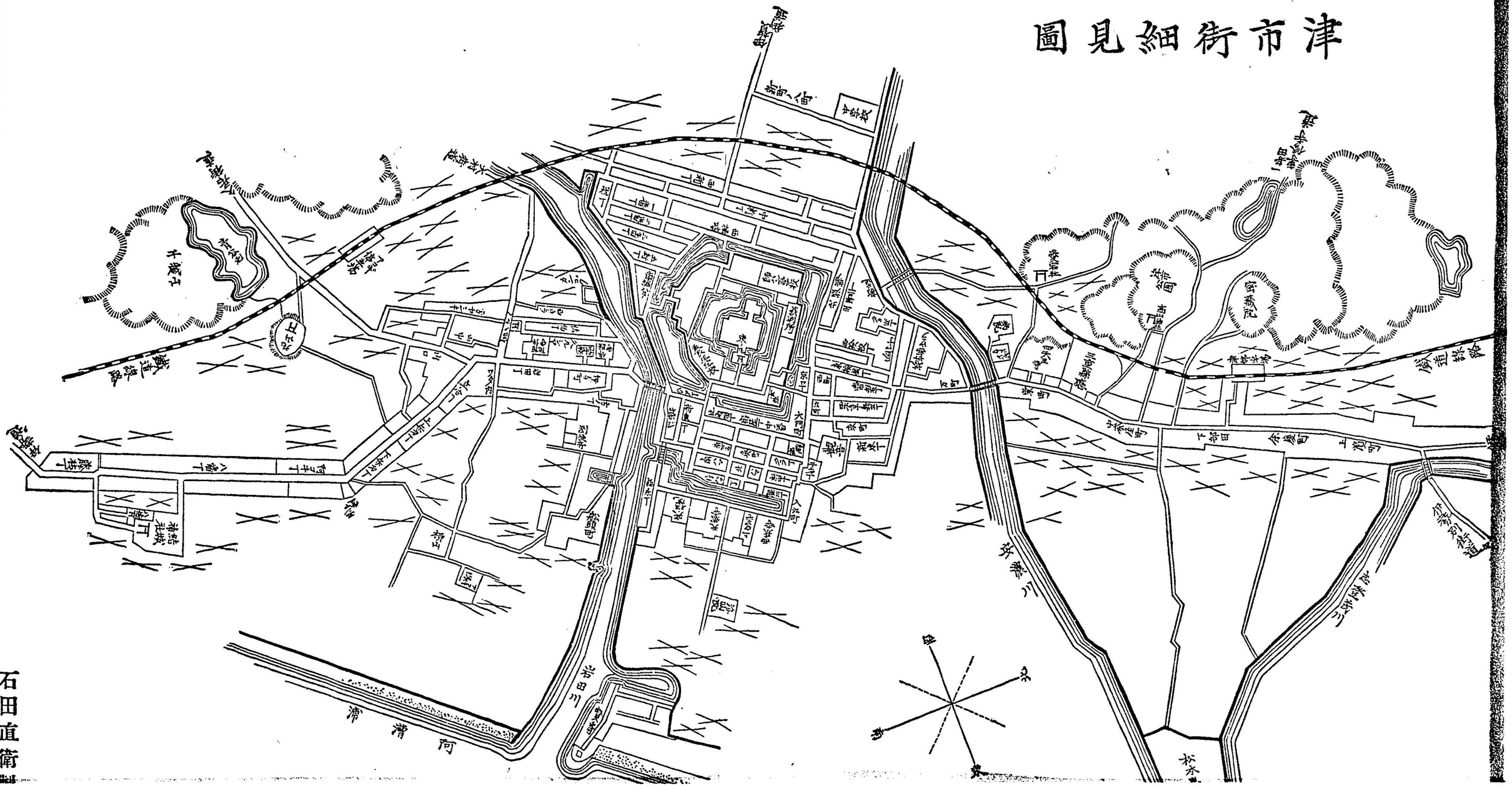
明治廿八稔歲躔旃蒙協洽夏五

城南外史馬塲驥撰

津市街細見圖

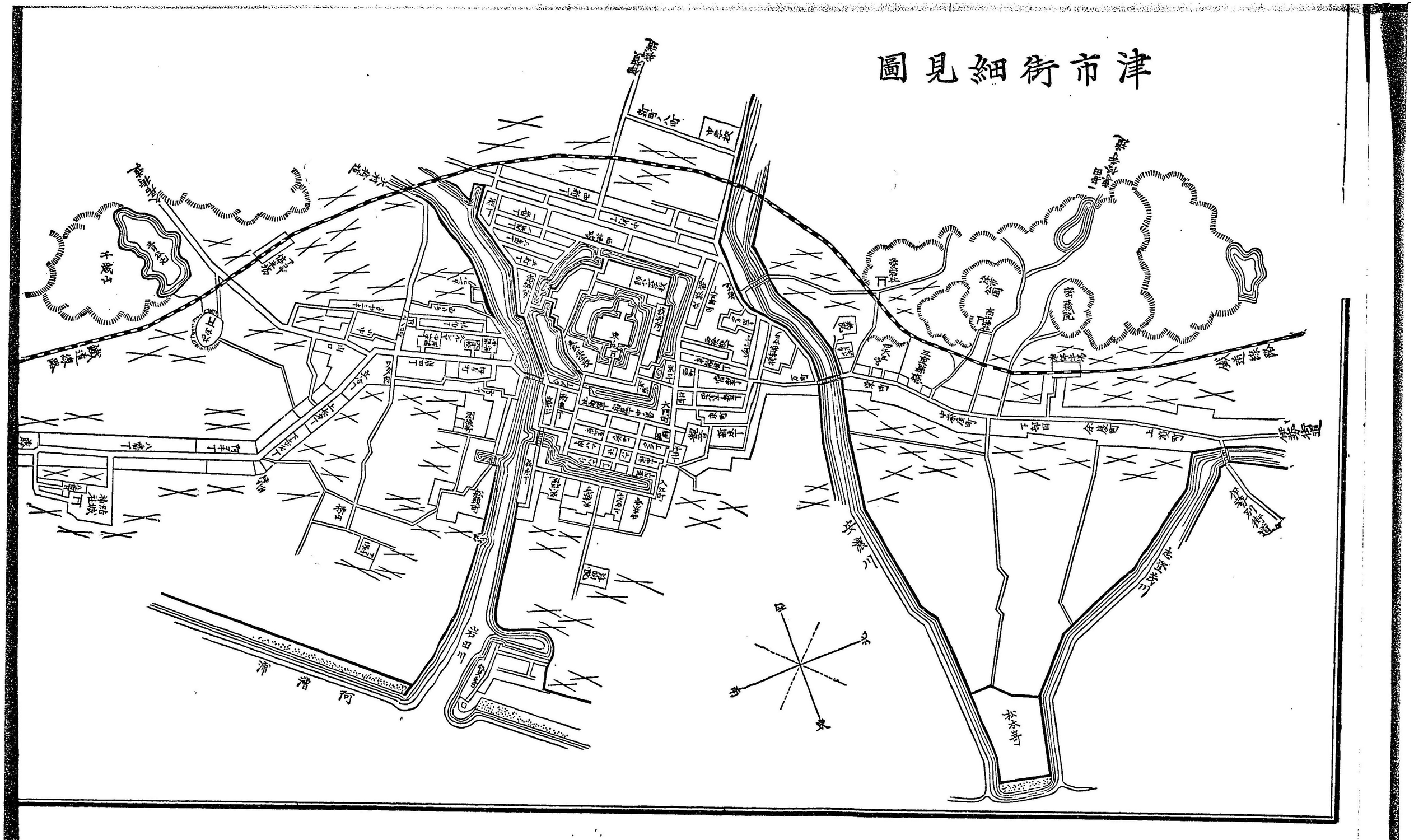


津市街細見圖

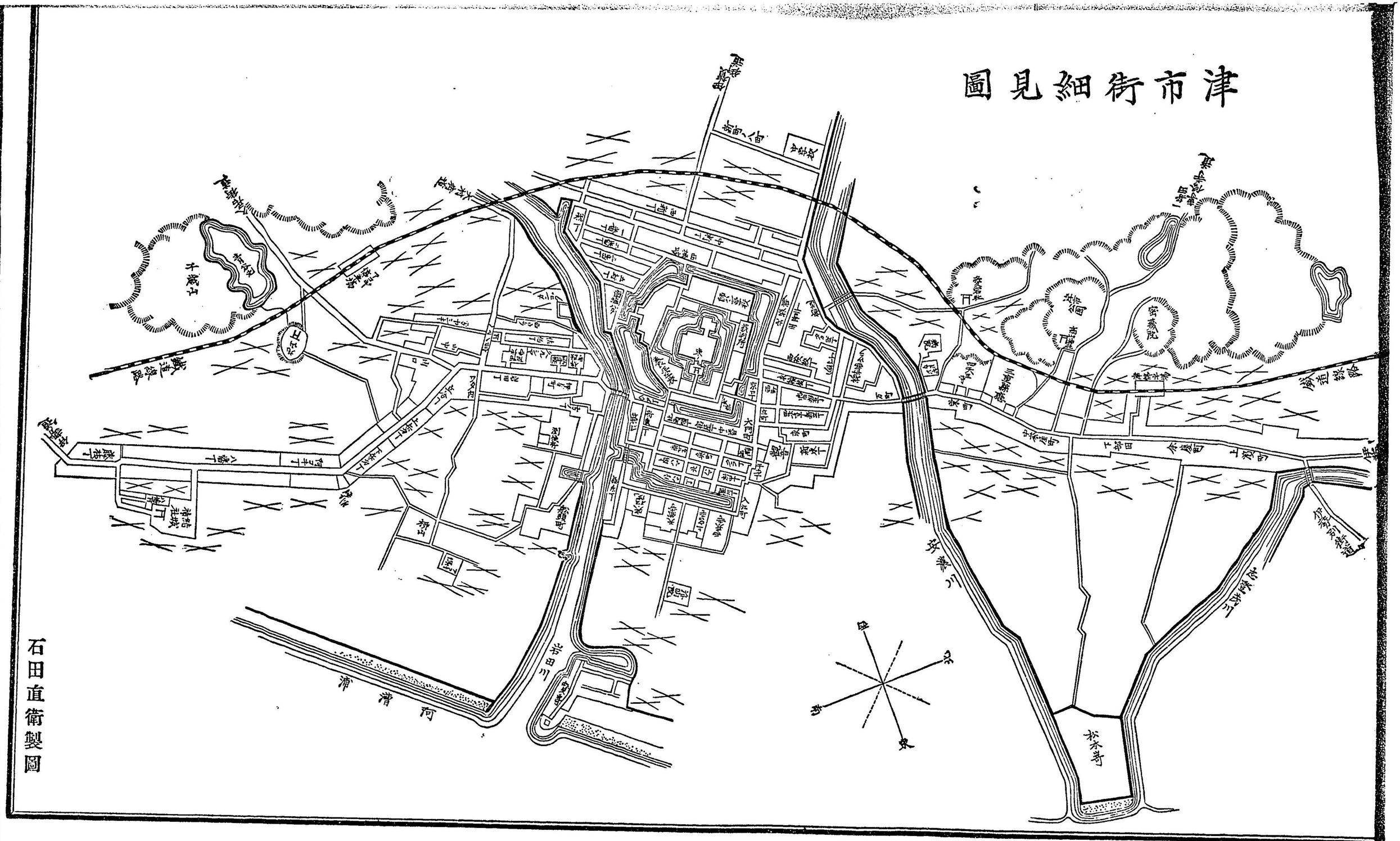


石田直衛

津市街細見圖



津市街細見圖



石田直衛製圖

洞津みやげ

野間朝次郎著

津は伊勢國の中央に位し安濃奄藝の二郡に跨り西は山を負ひ東は海に面し南北二里東西之に半す東海道及ひ諸道の大廟に參詣する孔道にして土地殷富百貨滙聚市坊は凡て八十五にして人口は殆と三萬に滿てり

津の名稱は往昔安濃津（アノツ）と云ひしがいつとなく單に津とのみ稱するに至れり始め安濃津を穴津（アナツ）（太閤記には織田信包を穴津少將と云へりと）と訛り呼ひしを明人茅元儀武備志に轉訛して洞津と呼ひなすと載せたり夫より洞津を通稱とするに至れり本市の氣候冬日殊に和暄にして寔に洞津の名に稱ふと云ふ

抑も今を去る殆と三百年前津藩祖高山公（藤堂高虎朝臣）の封を此地ゐ受けられし當時は庚子の兵燹に罹りし後にて市井蕭索

五百家に滿たざりしが公の受封後夙に仁政を施し士民を愛撫せられしかば人口日に蕃殖し幾何もなく殆と一萬戸に至れり其後藤堂家歴代之を領し益繁華に赴けり廢藩置縣後は道路の便大に開け陸ゐは馬車人車の往來港には商船賈舶の出入織るが如く又毎日諸方へ氣船の出帆あり且つ近年關西、參宮兩鐵道會社の布設に係る南は宮川より北は桑名及ひ江州草津に抵る線路の通せし以來至便限りなく實ゐ縣下第一の都會なり

市街を横さまに貫通する二川あり北を塔世川と云ひ南を岩田川と云ふ各橋を架し其川名を冒せり更に北端を流る一川あり志登毛川と云ふ塔世橋以北を橋北と云ひ岩田橋以南を橋南と云ひ兩橋の間を橋内と云ふ藩政の頃は此の三區を合稱して津と云ひしが維新後は改めて唯り橋内のみを津の市街と稱へ且つ安濃郡の津ゐてありしが明治二十二年市制を布かれてより郡部を離れ從前の如く又三區を合併し津市となれり

津城雜詩三十首之一　津坂東陽

千秋天府國中央、市闤舟車輻輳鄉、萬井連甍三郡境、紅塵相撲海雲光、

津城三月作　齊藤拙堂

臺笠羅裙京樣鮮、通衢春色更嬋妍、桃花馬上架檻楯、三朶芙蓉發曉天、

公園は橋北部田にあり山に踞し野に臨む舊と廣明の里と云ひ藩公の山莊なり當時は傑閣高樓相連らなり佳花芳樹泉石の布置整然として宜しきを得勝景絶佳を極めしが維新後藩公の版籍を奉還し東京に移住せられし後は此地も

亦隨て頽敗に歸し過るもの心を傷めざるわなかりしが世豈に名區を空しく埋沒に歸せしめんや明治十年前縣令岩村定高氏稟請して公園となし大に修理を加へしかば殆と舊觀に復し四時の景色一として佳ならざるわなきに至れり春は櫻花の爛熳として人を招くあり遙に之を望むに彩霞の籠るが如く白雲の拖ひくが如し加之ならず處々に躑躅花の紅血を滴たゝらし艶を櫻花と爭はんとするあり又池涯に藤架あり花時垂綬若々として紫艶人目を炫するあり殊に此藤は舊藩創業の故國たる近江藤堂邑八幡社樹の種なりと云ふ夏は茂樹蔭蔚として涼風衣を襲ひ三伏の熱を忘れしめ尤も避暑に適せり秋は紅楓霜ふ飽き爛然松樹の間に交わり紅綠相掩映して錦繡の如く又殊に中秋實月に宜しとす冬は觀雪に宜しく六出皚々臺榭樓閣銀を鋪き枯木朽樹花を着け光景一變極めて愛すべきものあるを之が爲に四時遊人跡を絶ゆる事なしと雖も特に陽春の頃は遠近の士女花下に麇集し幔を張り席を設け樽を開き觴を飛ばし或は吟咏或は舞蹈或は絃を彈ずるもの或は笛を弄するものあり皆各其歡樂を極む實ふ縣下第一の樂地にして他に比類なき公園なり

縣社高山神社は公園に鎭座し舊藩士の高山公の遺德を追慕し其の洪恩を遺忘せざらんが爲に奉祀する所のものにして祠廟壯麗輪奐の美を盡せり社殿揭ぐる所金字神號の扁額は詢堯公（正二位藤堂高猷公）の筆なり毎年四月五日十月五日の春秋二期祭典執行あり擊劍會書畫會能樂角力戲等の奉納ありて尤も閑盛を極む當社は明治十年の新建にして詢堯公の頌辭あり

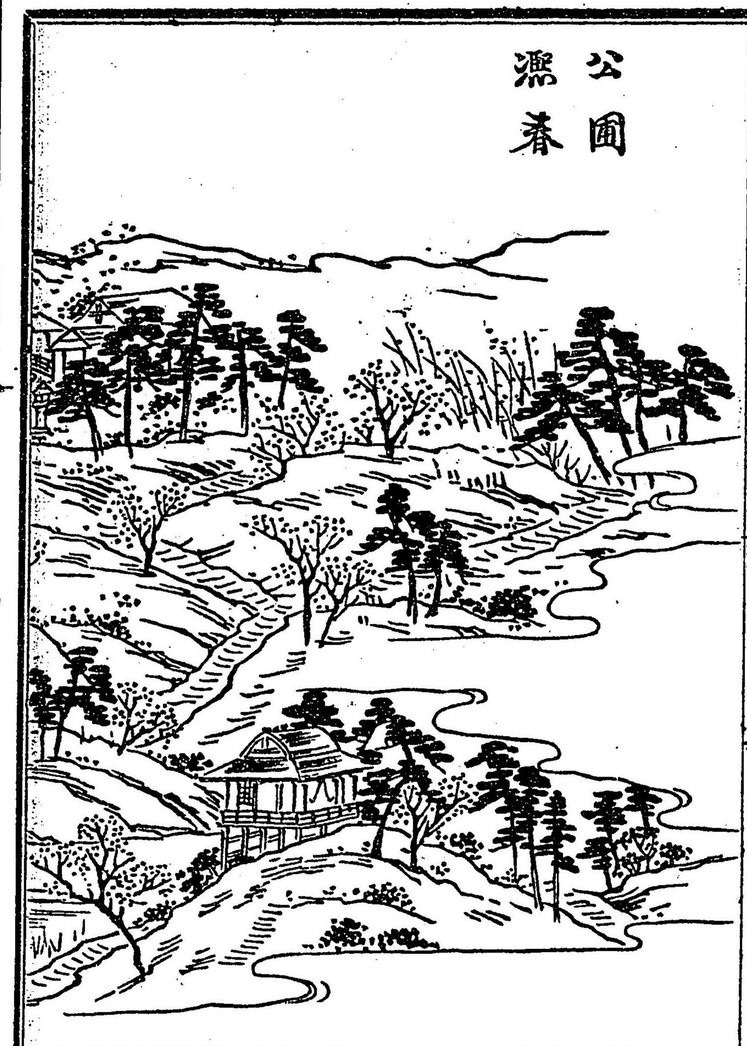
高山神社頌辭

嗚呼偉哉吾始祖之勳業也、身在兵馬倥偬之際、無戰而不勝、無攻而不拔、智勇之名不唯聞于海内而已、遠震朝鮮、延及朱明、豐臣氏賞其功封伊豫板島、既而主少國疑、物議洶々、天下之勢未知所屬、當此時德川氏任用始祖參謀機密、撥亂反正以開二百餘年太平之基、於是乎移封伊賀、併有伊勢山城大和下總之地、可不謂偉乎、然而祭之家廟、未列祀典、猷竊憾焉、因陳其情、得官許可、乃創立祠宇於安濃郡下部田廣明、號爲高山神社、今茲丁丑九月五日、遷神主以修祭事、爾後每歲以十月五日祭之、定爲永制、蓋此地眺望絶奇、猷爲藩主之日置亭榭、鑿小池、雜植松竹花木于其間、爲政暇游豫之所、頃者獻天朝、今則爲公園、尙得祀于此、可謂光榮矣、伏惟不遭維新之恩文明之時不能達宿志、既達宿志、非舊士民奮勵盡力出于誠實、經營竣工之速何能至于茲哉、而使其然者抑亦由神靈暗贊而默護之也、宜矣人々不期而來、不約而至、仰望欽慕、日盛一日、其功德高於山、適與神號符、謹綴數言以頌焉、

兩社八幡宮は高山神社の左傍にあり、招魂碑は公園最高の處にあり明治十年西南の役津市及ひ安濃郡より出て軍に從ひ戰沒せし士卒の靈を合祀せり撰文は中内樸堂翁ゐして野田半谷翁の篆額並に書あり、碑の傍らゐ一小亭あり傘の臺ゐ云ふ形を以て名く頗る眺望に富み海山の觀一眸の下ゐ屬せり、公園の碑は園の中央ゐあり故安濃郡長福井邁氏の撰文並に書なり、孝女登世の碑其西ゐあり詢蕘公の篆額ゐして川北梅山翁の撰文安濃郡長柚原具致氏の書なり

223995

公園
濕春



碑の北に倶楽部あり廣明館と稱す

密藏院は公園の北、白山にあり眞言宗なり此地甚た遠眺に富み秋天澄霽の日ゐは海を隔てゝ遠く富岳及ひ信州駒ヶ岳を望むべし後山ゐ四國八十八ヶ所靈場の擬造ありて毎月廿一日參詣人頗る多し此寺一時は荒敗に歸せしが明治の初年僧良澄なるもの之を再興しさり山頂ゐ碑あり再興の辭を刻せり、山の東麓に關西鐵道の停車場あり

白山再興銘辭

昔在寛文、星纏敦牂、民主有疾、維祈以應、誰歟尸者、朴心其坊、爰始立壇、授名密藏、致禱致虔、歷載祭禡、中間垂百、曠分多暇、英純寶曆、照空文化、乃逮良澄、奮修廢課、如龜維山、重見輪奐、壇堂厨廡、萬目聚讀、稲田條々、海氣爛々、駿嶺驪岳、資我妙觀、其繼今後、合境辨香、致虔致禱、昕夕有常、誦經如涌、鈸雜鼓鐘、保護君民、地久天長、明治元年、仲冬之日、現住良澄立石、土井有恪撰文、野田可復書字、

三重縣廳は公園の南ゐあるを明治十二年の新築ゐして結構頗る宏壯ゐを

塔世山四天王寺は縣廳の南ゐあり曹洞宗ゐして本國にある該宗の寺院は悉く當寺の管轄を受く堂塔規模頗る莊嚴ゐして本州第一の古刹なり舊と聖德太子の建立に係る名藍なりしが數百年を歷て關原の役の兵燹に罹れり後ち元和中高山公の再建せらるゝものなり境内に藥師堂太子堂八王子堂及ひ織田右府の母堂花屋壽榮大姉の墓富田信濃守知信の五輪塔其息千代丸の墓芭蕉翁の文塚等あり又後山ゐ高山公の正室久芳夫人の墓及ひ藤堂渫齋津阪東陽齋藤拙堂同誠軒諸翁の墓あり渫齋氏名は光寛通稱を數馬と

云ひ舊藩老ゐして誠德公に仕へ命を承けて學校を創建し今ゐ至る迄賢者を以て稱せられ功績極めて多かりし人なり此山の巔頂より天氣晴朗の日ゐは富岳を望むべしと云ふ

塔世川（一名安濃川）は水源を經ヶ峰ゐ發し東流して海に入る其水尤も清洌ゐして多く香魚を產す此川の注口は元と斥鹵沙汀ゐして大雨ごとに堤防を衝決し近傍諸村は之が爲ゐ損害を受くる事多かりしを以て官屢々之が修繕を加へしも止まざりしが寬政中北勢三重郡の人松本安親氏官ゐ請ひ役夫を督し注口を決去し其沙土を以て堤を築き崎を環らし其内を開墾し新田十數町を得たり爾後大害至らず遂ゐ其洲嘴を松本崎と名く今ゐ至り人其利に賴れり同地ゐ建てる紀功碑は拙堂先生の撰文にして井野勿齋翁の書なり

彼の有名なる安濃の松原の遺跡は此邊一帶の浦濱なるべしと云ふ松原は明應七年の震災ゐて陷沒せり元と風景佳勝の地なりしと云ふ

寄名

西園寺入道

わか松のゑふゐ立そひ詠れは
そかひに霞むあけのまつはら

鬼薩（オニノヅラヤ）竈は舊と安乃の松原にゐて露根（チフネ）林の東ゐ當れり往昔の官道は是處より海濱を繞り乙部を寺町との間を經て岩田川ゐ出て滿潮の時は渡舟を呼ひ干潮の時は徒步して渉り阿漕塚の東より八幡の森に至り再ひ海岸ゐ出て雲出村ゐ達すと云ふ

三重縣會議事堂は塔世橋畔の北涯に臨み巍々として空ゐ聳へ頗る眺觀の風致を添へたり其西ゐ小丘に病院あり始

め縣立ありしが今は私立となり、三重縣甲種醫學校も元と病院の傍らゐありしが明治十九年廢校せり此地は元と箕手山と云ひ舊藩宗臣藤堂歸雲氏別莊の遺趾なり

愛宕山は病院の西北ゐ聳へ老樹森鬱として晝猶暗し石磴數十級を拾ふて登るべし山頂ゐい比佐豆知神社を鎭座せり元を愛宕權現と云ふ毎年十月二十四日其祭典を行ふ

愛宕山ゐ接續し茶磨山莊あり舊と拙堂先生隱棲の地にして花木泉石の勝に富み兼て山海の觀あり莊中十二景代名を存せり

題茶山十二勝　　土井聲牙

雖設門
開閉付關鎖、來遊主亦賓、却知應門者、便是叩門人、

剪韮圃
昨夜鄰村雨、手書招故友、豈言乏供給、厨下洗春韮、

綠雲屏
移柳復移蕉、夏凉風滿戸、自誇亭午夢、齁々皆辛苦、

棲碧山房
廟堂務咈吁、邱壑樂都俞、元是同天地、心殊境自殊、

秋錦坡
夕日沒西山、餘光逗林墅、丹楓四五叢、禽鳥相忘語、

櫻花塢
櫻塢春方好、撚鬚永歎嗟、難將夷狄字、賦得本朝花、

竹裡逕
山逕入篁篠、俄然變晦明、前頭人乎鹿、歘々有行聲、

掬月泉
下瓶汲山泉、々清月在底、半輪烹苦茶、半輪炊芳米、

爛玉坪

梅下安蹤榻、月寒香可弄、時々有高士、來續孤山夢、

羊腸阪

一盤又一盤、乾坤次第多、西南認城堞、東北瞰滄波、

觀海亭

蜻蜓張右腋、一碧風雲滙、具眼果何人、能來觀此海、

白雲關

構門在絶巓、境寂誰能侶、白日煙雲深、狐嗥不知處、

三重縣尋常中學校は塔世川の南岸ゐあり舊藩演武莊の遺趾あり、龍津寺其西ゐあを明治十九年二月回祿の災ゐ罹れり今再建せるものは假の堂宇なり當寺ゐ猪飼敬所石川竹厓二先生の墳墓あり

櫻川ゝ萬町の南端にあり舊と著名なる川なをしが世の變遷につれ今は一小溝渠となり唯名のみ遺れり川の傍らゐ割烹店あり櫻水樓と云ふ此川により名を取りしなるべし

萬町の東、報恩寺ゐ長良顧齋翁の墓あり

津市役所並に市會議場も西町ゐあり元と安濃郡役所安濃郡公會場を以て之に充てり

津城墟は丸の内ゐあり元延貞元の間平正衡其子安乃津三郎貞衡、正盛、貞衡の子清衡、正盛の子忠盛等相繼て此ゐ居城せり當時は海濱ゐありしが明應三年の震災後今地ゐ移せりと云ふ弘治中細野藤充始めて城を築き永祿中其子藤敦之を修理し此に居りしが同十一年織田右府の攻取する所となり尋て織田掃部介信昌同上野介信包穴津少將等此ゐ居城す天正七年富田左近大夫信良同信濃守知信代りて之に居る慶長十三年高山公之を領せらるゝに及ひ大に城樓を修

繕し爾後累代藤堂家の居城さり明治維新の後陸軍省の所轄となり、雉堞處々廢頽し草樹荒涼として空しく狐狸の巣窟となりしが明治二十二年拂ひ下げとなり再ひ舊藩主の所有となりしかば舊藩士族中有志者は共同して之を借り受け開墾して桑園となせり

城墟の東部に樹木岑蔚たる處あり東の丸と稱す近年此地へ北町に在りし所の八幡神社御旅所を遷し城濠の一部を埋立て新道を開設せり城濠は即ち内濠にして俗に百間濠と云ふ近年濠中多く蓮を生せり開花の候紅白相交り香氣芬芳衣袂を襲ひ詩人墨客の筇を引く者頗る多し

地方裁判所は内濠の北涯に臨み明治二十六年の新築に係り頗る壯觀なり、三重縣尋常師範學校並に附屬小學校は内濠の西端にあり伊勢新聞社は内濠の東涯にあり同社に隣り津市女學校并に幼稚園あり女學校の後より近年外濠の一部を埋立て新路を立町へ開通せり、三重縣監獄拘留所は内濠の南にあり其東に養正高等小學校あり舊藩校有造館趾に新造せしものなり三重新聞社其北にあり學校の前より東、分部町へ通する一直路あり維新後外濠を埋立て新路を開設し以て往來に便にせしものなり實に丸ノ内は他町に比して維新後著しき變遷を來せり

分部町地頭領町宿屋町中之番町大門町立町東町等は尤も繁華の市街なり惠日山觀音寺津警察署郵便電信局津市勸工場三井銀行百五國立銀行商業會議所商榮館勸工場等は大門町にあり二見新聞社米穀取引所は東町に津農商銀行内國運運會社は宿屋町に海陸運送社は地頭領町にあり其他書林活版社洋物舗吳服店雜貨店旅舍割烹亭酒家等右の

各町に鱗次櫛比せり

惠日山觀音寺は眞言宗ゑして堂塔壯麗丹雘粲然實に本市の名伽藍なり俗ゑ傳ふ本尊觀世音菩薩は和銅二年阿漕浦ゑ於て漁夫の網ゑ罹を出現せし靈像なりと云ふ當寺ハ元と勅願に依を建立ありしを八百歳を經て慶長五年石田三成逆亂の時都て刼灰に歸し唯本尊のみ無事に守護して立退きしが慶長十八年高山公之を再建ありて誠に善美を盡せり當寺は伊勢三十三ヶ所の第十四番なり即ち隨喜者の逐次巡拜し西國三十三ヶ所の靈場に擬するものなり

第十四番詠

伊勢の海清きなぎさに舟うけて
あひあう君をあふく此てら

毎歳四月會式を執行するに當り諸々の見世物露店小肆軒

を連ね屋を接し賽人遊客旁午雜沓を極む近年堂前に櫻柳を移植し陽春の候紅を鬪はし綠を競ひ殊に愛すべし夏時は又茶棚氷店櫛比し納涼の客甚た多し域内に愛染堂祇園祠稻荷祠辨天祠及ひ坊舍六院あり

八月一日夜携兒詣觀音堂口占　園田一齋

寺門爲市氣憑陵香火人多晃佛燈知是大慈悲願力一

觀音養六坊僧（寺内有六坊）

本堂の後に演劇場あり大榮座と云ふ結構頗る堅牢なり元と設くる所狹隘なりしを以て明治十六年新築し本市の一大劇場とかれり其他域内ゐ綠座堺座等の寄席新聞雜誌縱覽場球突場室内射的場楊弓店割烹亭等の設置ありて四時遊觀の地なり

國府阿彌陀堂は本堂の西にあり本尊阿彌陀如來は有名な

る尊像にして香火常に絶へず毎月十五日ハ其緣日なを津警察署ハ觀音寺仁王門の前にありて舊藩の待賓館趾に新築せしものなを待賓館ハ勅使及ひ諸侯本市へ宿泊の時之が備へに充てり明治二年三月　鳳輦御巡幸あらせられし節當館を以て行在所ゐ充てられたり警察署前より東へ入る一町許り千歲町に蟹ヶ淵（一尼ヶ淵に作る）と稱する處ゐり往古此邊ゐ深淵ゐを、ある時蟹人の投死せしより傍に寺を建て之を祭り名けて蟹淵寺と云ひしが後ち寺町に移し主僧岌譽ゐる者其音の近きを以て更に天然寺と名けしと云ふ千歲町の隣町入江町に大觀亭と呼ふ一大割烹店あり貴顯紳士の宿泊所及ひ懇親會場に充つ魚町は入江町を南に折れし處ゐして毎朝盛に魚市を行ふ北濱南濱片濱等は魚町に接近の町にして概ね魚肆或は蟹戸にして魚類を販く處

なり

堀川は舟運の爲に一大溝渠を堀り岩田川の水を引きしものなり故に堀川と云ふ志紀諸州の魚船常に來り碇泊す川に橋あり極樂橋と云ふ築地と極樂町との間に架せり往昔鴛鴦の津と云ひしは是を云ふなり川の西岸は即ち片濵なり對岸は寺町にして琳宮梵舍參差相接す就中寒松院天然寺長樂寺上宮寺西來寺を最も巨刹とす

寒松院潮日山願王寺は天台宗にして本市第一の名藍なり舊藩主歷代の香華所ゐして支藩久居侯の墳墓も亦當寺ゐあり寒松院は即ち藩祖高山公の謚號なり寶殿香閣巍々として高く翠松の間に聳へ隱然城郭の如し明治十三年七月　聖上三重縣へ御巡幸ゐらせられし節當寺を以て行在所ゐ充てられたり又明治二十年三月　皇太后宮の行啓の節も御泊所に充てられさり寺内の南隅に鐘樓あり其懸る所の梵鐘は孝讓公津藩七世藤堂高豐朝臣の鑄造せしめらきしものゐして其銘文は宗臣高文氏の撰する所なり

願王寺梵鐘銘並序

安永八年歲在己亥六月十八日、前伊賀侯從四位下行中務大輔兼左近衛權少將藤原朝臣高豐建

伏惟、吾大宗大通公、襲封明年、就藩于洞津、敘大祖寒松院高山公祠堂於津之北涯、距城三里、門對經山之雲、林照滄海之旭、號潮日山願王寺、請僧都昌泉院清賢、掌奠祝、晨香夕誦、連綿無斷、又置國初死事牌、亦繼述之一端也、爾後、大通公了義公、到岸公之祀典、皆行乎此堂中、擇南園清淨地、瘞遺髮、各五層石浮圖、大亨公、大輪公、長空公、卜窀穸此地、而後掌節嚴有加、六夫

人、本寂世子位、金性公子墳、及久居五侯世祀、亦屬本院、恭惟、大公老丹門、清樂十年、常憶祖宗之洪恩、欲鑄梵鐘、以薦冥福、適當高山公百五大祭之歲、委有司督造焉、并建鐘樓、用物出乎苑裘、今公感戴盛意、發徒役助之、不日畢功、粤秋九月二日、大開法筵告成、幽明、夫鐘之功德、布在梵筴、蓋稽唐虞、五色八音、輔服色之政、夏后木鐸、並猝序之教、則亦深有取於音之用矣、今也昇平垂二百年、一邦民、慣觀城郭輿服羽旄之美、既知貴賤之分、從今旦昏擊此鐘、響達于四郊、萬獄呼應、魚龍騰踊、士庶男女聆之、上思大公報本之孝、而厚其父母、下憶乃考乃祖、世祿世業、迎新送故、無憾之澤、而各竭力於其列、學道藝、修官事、勤耕織、則百工肅清、永靡奸司寇之刑、若夫干城家、聽之思臣節、則居治不忘亂、以守社稷、廷國脉無疆、是一舉萬善可謂盛矣、乃命臣文銘之、嚴臣不敢請、謹爲銘云、

翼々梵苑、鎮我洞城、鎔茲新鐘、物和嘉成、假手鳧氏、問象鹿鷺、不窕不擷、侈弇中度、乃造靈閣、乃莊仁祠、考之鏗々、如雷如霆、晨亦斯音、暮亦斯音、休祥悔吞、無有異音、擊者無音、聽者辨眞、哀哉下愚、甘竟傲狠、徹耳感心、更初遷義、若闇得燈、若飢遭饍、惠及昆蟲、化被水族、冥々積德、彰々亨福、君民同慶、昭穆濟勳、永將教典、對罔極恩、

洞津里居 臣高文謹撰 臣蘆川布良謹書

天然寺は淨土宗にして中本山なり元と蜑ヶ淵にありしを後ち今地ゑ移せりと云ふ土井葬牙翁の墓當寺ゐあり天然寺の南隣光德寺ゐ川村竹坡翁の墓あり

長樂寺は禪臨濟宗なり一ゐ淨明院と云ふは當寺に了義公

の母公多羅尾氏（號淨明院）を葬むるを以て其諡號を用ゆるなり寺内ゐ達磨堂及ひ奥田三角翁壽壙碑あり達磨大師の像は頗る巨像にして全國稀に見る所なりと云ふ當寺にも亦四國八十八ヶ所靈場の擬造あり近年の設置ゐ係れり寺前ゐ藤堂歸雲氏の海莊聽潮菴の遺趾あり同所ゐ同氏の先大樣氏の墓あり氏名は高文字は子樣別號は東山、孝讓公の弟ゐして博學賢才の譽れあるし人なり

宿淨明院　伊藤東涯

淨明寶刹繼南宗、淺塢長林穿幾重、未解人生如夢幻、每逢佳境且從容、峽雲催雨僧歸院、海日沈波鳥宿松、領略神州山水勝、上方一夜聽清鐘、

上宮寺は高田宗なり舊と阿漕蒲にありしを波濤の難を避け今地ゐ移したり寺内ゐ阿漕祠及ひ僧清韓の墓あり清韓は慶長十九年豐臣右府の命を承け方廣寺巨鐘の銘を撰せし人なり

西來寺は天台宗なり當寺も亦海濱にありしを水患を避け他の地（今其地を西來寺町と云）に移し後ち又今地に移せり宮埼青谷翁の墓寺内にあり

毎歲盂蘭盆十四十五の兩夜寺町の南端より北端に至る迄川に沿ひ一條の繩を張り之に百八箇の燈を掲く是を百八燈と云ふ燈影水に倒映し金波瀲灩實に一奇觀なり當夜は遠近士女頗る雜沓す是は元と元和年間大通公（津藩二世藤堂高次朝臣）高山公の命を以て伏見植島水上ゐ於て百八燈を燭し大阪陣亡將士の靈を弔祭せられしが當時都人士女聚て來觀し美談となせり爾後京都の堀川より江戸の不忍池に移し最後今地ゐ移し遺例を繼き毎年此擧ありしが維新後一旦廢絶と

なりしを有志の徒之を慨歎し明治十九年より再興し爾來年々之を行ふ事となれり、此地西は水ゐ臨むを以て一邊地を拂ふて物の影なく夏日炎熱甚た畏るべきを以て文化中舊藩命を下し岸ゐ沿ふて楊柳を植へしめしかば爲に凉翳を作し往來するもの頗る之を便とし且つ翠雲波光と掩映し風色甚た爽然たりしが今は僅に老柳數株を殘せり

津城雜詩三十首之一　津阪東陽

擁岸一行楊柳叢、夕陽煙水映葱々、遊春士女東皐路、翠滴清凉傘上風、

堀川寓目　川村竹坡

春江水漲雨餘天、檣簇東埭夜泊船、緩步板橋行恐盡、鬱蒼楊柳一川烟、

聽潮館は極樂町にありて岩田川の北岸に臨みゝる一大割烹亭なり此地は川村竹坡翁の別莊依水園の遺址なり聽潮館の東ゐ阿漕燒陶器製造所あを其東に瀛船待合所海水溫浴場等の設あを

贄崎は岩田川口にある花街なり紅樓翠閣甍を連ね水に臨み風景絶佳にして朝歌暮絃常ゝ喧しく遊人晝夜絶へず頗る繁華を極む此地は元と寂寞たる一洲嘴なりしを船舶碇泊の便にせん爲に安政六年新に川口に灣を堀り其土沙を以て今の地を築造せり又其灣を新堀と名く卽ち贄崎港ゐり水深くして帆檣常ゐ林立せり浦頭ゐ竿燈あり明治十八年七月の新築ゐして高さ水面を距る事四丈二尺燈光は不動白色にして海上の距離六里を照す舊の照海燈は文化中の創建にして其銘辭東陽文集に見へゝり

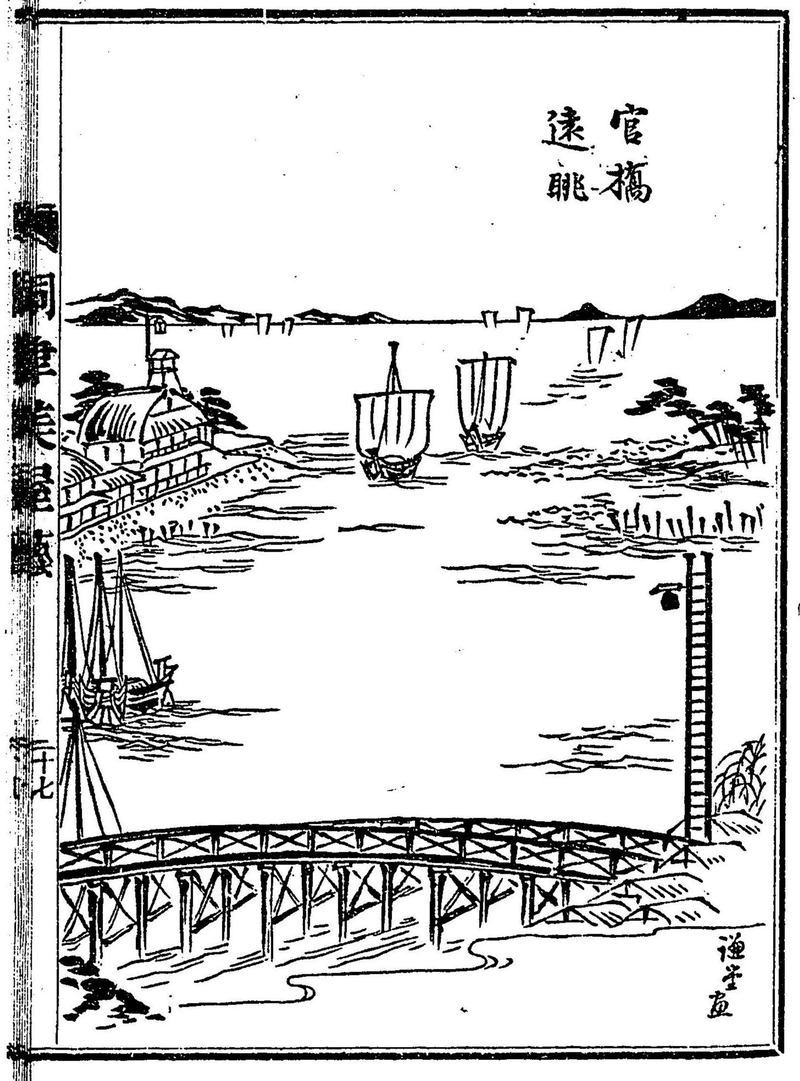
贄崎照海燈銘

高臺倚浦雲起、紅燄焰天夜明、海船指南是頼、烈風暴雨不迷、

新堀の西岸に臨み地勢突起樹木鬱蒼なる所あり舊藩炮臺の遺址なり

岩田川（古は石田とも作れり）は水源を安濃郡藥王寺村に發し東流して贄崎港に注く下流は潮水往來し極めて舟運に便なり隨て夏夜納涼に宜しく夜々遊舫を泛べ紅燈を點し鼓吹を奏し頗る繁華を極む秋日は又釣遊に適せり此川は永享元年七月國司北畠滿雅卿足利氏の將土岐與安等の軍を破り後ち利あらずして戰死せられし古戰場なり精しき事は本史に見へたり

岩田橋は分部町と伊豫町との間に架せり此橋は古歌に所謂安濃の板橋にして元は　大神宮一の御橋と云ひ欄干擬寶珠にして橋勢穹窿其形虹蜺の半空に横わる如くありた



を往昔驛道の橋梁にして欄頭に擬寶珠を設くるものは江州の勢田橋及ひ此の岩田橋に限を其他は道中或は之れ有を雖も城濠若くは神祠佛閣の境にして輦都と雖も馳道の外も之を設くることなし蓋し勢田橋は畿甸の外塹なるを以て特に壯觀ふして岩田橋の之ゐ比するを得るものゝ即ち　大神宮ゑ參詣する要路さるを以てなをと云ふされどをしむべし今ゝ此觀なし明治九年洋風に模擬し後ち又修繕を加へ今の橋に改造せを橋上は常に行人車馬絡繹織るが如く且つ頗る風光に富めり試に橋上に立ち眺むれば西も布引經ヶ峰長谷の諸山一帶峨々として蒼翠を連ね東は渺々たる滄海に接し布帆の出沒島嶼の碁布指點すべく甚た絶景なを此橋又盛夏の候市中の士女黄昏より來を歩を停め涼を納るゝもの頗る多し橋畔に里程元標官事掲示廣告掲示場等あり

夫木　　隆心法師

あさほらけ家田の松は霧こめて
　をぼつかあしや安乃の板橋

津城雜詩三十首之一　　津阪東陽

長橋孔道傍城隈、欄耀銅珠壯麗開、盤礴南風相競處、海門落日大潮來、

岩田橋とを數町許を上流の淺洲を石ヶ瀨と云ふ蘆葦叢生し水落ち石鳴を其北岸は喬木陰森として赤壁の趣あり其西の小嶼を廣德新田と云ふ舊藩の練兵場たり其南岸は舊藩及ひ支封久居藩の籾倉のありし處にして俗に之を新倉或は久居倉と云ひしが今は三重縣監獄署となれり、橋より下流南岸の地に三重縣栽培試驗場あり津市測候所あり共

に舊藩城南別館偕樂園の遺址なり其より少しく東に當る川に陡出し一莊園あり元と逍遙園と云ひ舊國老藤堂高泰氏海莊の遺址なり拙堂翁の記文ありて園中舊を左の十勝ありしと云ふ

對山榻　躍魚池　小瀑梁　臥龍灣　納涼壩
望海臺　紫雲架　湧碧門　垂釣磯　觀瀾亭

文政中詩佛老人來り此ふ遊ふ詩ふを石壁に刻せり

遊藤堂觀瀾大夫海莊、觀虎關禪師眞蹟、因用其韻、

水館何殊避暑宮、世間炎熱坐來空、千帆晩向海門入、載得南溟萬斛風、

佛眼寺は伊豫町にあり日蓮宗にして三重縣日蓮宗錄所なり本堂の傍らに妙見廟を鎭せり當寺は舊藩巨室藤堂出雲同仁右衞門同隼人諸家の菩提所ふして東湖隨筆中稱する所賢者の聞へありし藤堂多門良貞氏の墓及ひ平松樂齋翁の墓も亦寺內にあり

修成尋常小學校は佛眼寺の南にありて圓明寺の遺跡なり同寺ハ元と著名なる古刹さりしが維新後一旦廢寺となりしを近年學校の西に小堂を建て圓明寺の名を冒せり

阿彌陀寺は岩田町にあり淨土宗なり元と海岸にありしを水害を避け今地に移したり當寺に早崎嚴川翁の墓ふり

大市神社は宮之前にあり俗ふ川松明神と稱す祭神大市比賣命なり舊と安濃郡妙法寺村ふありしを今の地に移せりと云ふ例祭毎年十月廿一日なり

丸山は南郊田壑の間に突起するを以て最も眺望に宜しと

ふ滿山老樹蓊鬱石磴を設け盤路を通す路に沿ひ無數の華表林立せり山頂に狐王の廟二字あり其一は舊城墟東之丸

にありしを維新後此に移せり山の西に參宮鐵道の停車場あり

千歳山ハ丸山の南に峙ち青谷池に臨めり山の眺望當市の諸勝に冠たり津市の街衢鱗次眼下に横わり三重縣廳の粉堊を遠く森林の間ゐ望み寺院の堂塔諸會社の烟突は高く青空に聳へ西南は布引經ヶ峰星阪の諸山眉翠黛綠嫣然として迤ゐ迤へて笑を呈し東は勢海にして紺碧萬里一大鏡を磨するが如く風帆浪船其間ゐ出沒隱見し圖畫の如く實に言語ゐ盡すべからざる絶景なり此山は又中秋觀月ゐ最も宜しとす、文政中國校有造館の建つる材を此ゐ採りしを云ふ

甲申三月十二日、同平松子愿從、東陽先生遊千歳山、々在城南半里、高僅數仞、而南北沿海、勝槩歷々在掌、實府下第一名區矣、客冬公命闢徑築墩遍栽櫻楓躑躅凡數千株、爲士庶遊憩之所、於是始有此遊、詩以紀之三首、　石川竹厓

幽討乘春入翠微、新林無樹不芳菲、山禽未慣生人到、躑躅香雲各自飛、

海若山靈爭獻奇、登臨刮目雨晴時、煙雲新闢千年秘、乞與騷人速人詩、

万像居然入寸眸、海山風景冠南州、櫻岡楓塢時々賞、杖屨從今屢侍遊、

眞教寺閻魔堂は辨財町ゐあり堂の正面ゐ閻魔大王の鉅像を安置せり當寺は僧木眞の開基ゐして像も亦木眞の作なりと云ふ辨財町は辨財天の祠あるを以て其名あり

阿漕塚は閻魔堂の北數町田畝の間にあり老樹鬱葱として

下に小碑あり阿漕塚の三字を刻せを天明二年建つる所たり傍に一大碑あを上に阿漕塚と題し其下に芭蕉翁の俳句

月の夜の何を阿古木ゐ暗千鳥

の數字を刻し又其裏面に左の數語を刻せり

此地大樂山上宮寺舊跡也碑面東都雪中菴完來所書

文化十三丙子仲春安濃津阿漕菴雁路建之

俗に傳ふ當地海岸は往古　大神宮調進御贄の魚を漁を貢獻する處にして禁漁の場所たりしゐ贄人阿漕平次なるもの夜間潛に網を投し魚を捕ふる事屢々なりしかば終に事露れ其身を生きながら竹簀に卷かれ海底に沈めらる此日七月十六日なり後ち其靈祟をなすを以て祠を建て其靈を弔祭せりと事夙に院本謠曲に叙し頗る人口に膾炙せり毎年陰暦七月十六日法會あり當夜は士女群集す

六帖

逢ふ事をいはきれ島ゐ引網の　鴨長明
たひかさあらと人もしらなん

續千歳　後照念院
いかゐせんいはあたの浦のうらみても
度のさあれはかわる契りを

發句　讀人不知
しつむ名も高しあたのけふの月
夏の海のせのあこたのみやあのあ
あみ曳た跡はあゝらか麥のあみ

阿漕浦　梅辻春樵
佛燈一點影殘闌、海氣吹腥飛雨寒、想得當年如此夜孤、
舟提網上空灘、

阿漕塚の一町許り西に小邱あり松榎各一株を植へ船塚と云ひ平次の當時用ひし所の舟を此に埋めしと云ふ西來寺塚又其西にあり西來寺の舊墟なりと云ふ

此邊の海岸を阿漕浦と云ふ松綠に沙明に寔に清渚の名に負かず南は遠く香良洲ゐ連り東南は參尾の諸山及ひ南勢の朝熊岳と海を隔て相對し征帆歸舶煙波縹緲の間に往來し風景畫くか如し阿漕浦の南部を米津浦と云ふ両浦とも捕魚の娯あり就中他國に誇るべきものを立干とす之を行ふゐは五月より七月頃迄を好時期とす其法は漁夫を倩ひ滿潮に乘じ長網を張らしめ海濱を截斷する事廻環十五町若くは廿町許りゐして潮落つるゐ及ひ群魚隨て去る能わす或は淺水に喰噉し或は鴻鹵に跳躍す是に於て士女喧譁手ゐ信せ爭ふて之を捕ふ其易き事恰も遺ちたるを拾ふが

如し又大魚の跳跋として手捕すべからざるもの有る時は短叉を挺し刺して之を捕ふる事あり其獲る所の魚は蛪鬚魚あり比目魚あり牛尾魚あり雞魚あり鱸あり鱸あり籃に滿ち甕ゐ溢れ其數多き時は萬を以て算ふるに至る捕魚畢て後ち沙頭に氈を展き慢を張り杯を傾け獲る所の魚を下物とし或は鱠にし或は炙り或は羹ゐし各好む所に從ふて之を食ふ其味鮮美にして口に媚ふ其快言ふべからず凡そ世間に捕魚の娛多くあれと雖も恐らくわ之に若くものはあらざるべし又立干の他退潮の時ゑ方り竹蟶を捕り蛤蜊を拾ひ或は海濵の松林に松露を探る等の歡樂あり故に春秋遊人常ゑ絶へず此海濵又秋冬の間鰛魚及ひ竹葉鰛等の漁獲あり其法預め數百丈の巨網を下し海中を截斷し衆漁夫四方より來り集り耶許之を曳き漸く沙際ゐ至り之を擧く銀刀潑剌として沙上に躍出し甚しきは鬣尾遺鱗地に委して顧みざるなり尤も大漁ある時は舟を以て量り車を以て載せ其直數百金に上ると云ふ

閏五月念九、同芹宮諸子、打漁於阿漕浦、遡梁公圖夫妻、與俱賦以紀事、　齋藤拙堂

五瀨多清渚、我津更安瀾、漁樂四時好、最好是植干、植干偏宜夏、連網插筠竿、截海三五里、廻環如繚垣、潮落網屹立、萬鱗被遮闌、喁喁泛淺水、驚人竄沙間、飛梭落無影、臥劍埋有痕、細認可掩捕、不須罟與綸、丙午閏五月、挈朋遊此濵、赤手掉臂入、與魚相追奔、梁子掣鯨手、又共爭小鮮、小鮮纔潑剌、大魚乍掀飜、捉取如拾塊、須臾欲盈船、沙場築作竈、行厨寄松根、甕子揮霜刃、片々雪堆盤、潮水煑爲羹、鮮美媚舌端、不須下鹽豉、正味出天然、饞口亦屬饜、飛

觥各醉醺、歡娛不蕭瑟、餘興更飄然、脫衣同蹈浪、碧灣是浴盆、煩歌一洗盡、恍作鯨背仙、壯哉吾鄉勝、記以誇宇寰、

結城神社は八幡町の東結城の森に鎭座せり祠殿頗る宏壯ふして雄峻なり祭神は贈正四位結城宗廣朝臣にして其子親光朝臣及ひ殉難將士の靈を配祀せり結城公は奥州白河の城主にして父を祐廣と云ふ元弘三年　後醍醐天皇の密詔を奉して新田義貞朝臣と共に北條高時を滅ほし其後ち足利尊氏叛するに及ひ北畠顯家卿ふ從ひ　皇子義良親王を奉戴し屢々賊兵を敗られしが尋て顯家卿并ふ楠新田の諸將前後戰沒し官軍大に利あらす　天皇頗る宸慮を胸ま し給ひしかば公再ひ　皇子を奉戴し奥州ま下を義兵を募り以て天下を恢復せん事を奏上し北畠顯信卿と共ふ　皇子に從ひ東國に赴かんとせられけるが陸路は賊兵充塞して通し難きを慮り海路を取り南勢大湊を出船し天龍洋を過き伊豆崎に至りし比ひ颶風の暴かに起るに遇ひ　皇子及ひ顯信卿の船に相離れ七日間海上に漂蕩し遂ふ此安濃津に吹戾され順風を得再ひ發船せんと待ち居られける折しも不幸疾に嬰ま遂ふ卒せらるゝふ至れり終りに臨て劍を按し切齒して國家の爲に亂賊を滅して天下を恢復せざるを恨み死後佛事を修むるを止め唯速に賊首を斬ま墓前に供せとと遺言せられたりきと云ふ廟の傍に墳墓あま壯觀儼然たま墓舊と田畝の間ふ顯然さりけるが寛永年間八幡宮を此地に建つるに及ひ遂に神林叢莽の中に隱れ容易に認むべからざるに至れり文政中藩主誠德公大ま祠宇を修拓し又水戸義公の建つる所の湊川楠子墓表の制に倣ひ碑を建て親ら題署し結城神君之墓と云ふ高さ一丈三尺二

寸津坂東陽先生命を奉して公の事蹟を碑陰に勒し石川竹厓先生之を書せり其後ち廢藩ゐ至り廟墓再ひ大ゐ敗頽に歸せしが故宮司川口常文氏大に之を慨し官ゐ請ひ墳墓を修理し更に祠殿を原廟の東ゐ造營し今の壯麗となるゐ至れり且つ別格官幣社に列せらきたり毎年五月一日祭典執行ありて奉納の競馬角力煙火戲等あり頗る雜沓す

縣社八幡神社は結城神社の西ゐあり祠廟宏麗丹碧煥然たり當社は舊と千歲山の麓ゐありしを寛永九年今地に移せり舊藩の鎭守祠にして社領三百石ありしが維新後津市街の氏神となれり祭禮は毎年十月十五日（從前は八月十五日）ゐして同月十日より十五日迄神輿丸ノ内の御旅所へ渡御ゐり當日は各町より山車（ヤマシ）旱船（カラフネ）等を練出し此日市中は大ゐ熱鬧を極め甚た盛會なり

招魂社は八幡神社の東ゐあり明治二年の創建にしゐ關原大阪二役及ひ明治戊辰東征の役王事ゐ死せし將士の靈を祀れり元と表忠社と云ひしが後ち今名ゐ改め明治十年西南の役本縣より出て軍ゐ從ひ戰死せし士卒の靈をも合祭す例祭毎年九月二十日なり是日競馬角觝等の奉納あり

藤枝町妓閭は八幡町に接續し本市の南端ゐあり其西ゐ當り東雲寺山峙立す山上に東雲寺及ひ稻荷神社あり四時の風景眺望頗る佳なり

津市名產

津綟子　茄子團扇　阿漕燒陶器　竹籃　鶴の巢籠　福壽煎　磯の花　阿漕飴　松露　魚苗　蛤蜊　竹蠟

○津綟子は一名綟子布と云ひ夏日の襯衣及ひ蚊帳ゐ用ゆ往時舊藩主より德川幕府へ獻せられたるもの是なり

○茄子圓扇は其形茄子に似さるを以て其名あり構造極めて堅硬ふして且つ頗る雅致あり近年大ふ製造所を増しさりと雖も元と梅榮堂別所氏の創造せし所ふして同氏の製する所尤も巧ふして佳なり此品も亦舊藩主より幕府へ献せらるを又維新後　宮城へも獻上せられさり明治十三年　鳳駕本縣へ御巡幸の砌御用を仰付られ其後又皇太后宮陛下御參宮幷ふ　東宮殿下二見浦へ行啓あらせられ還啓の節も御土産として御用仰付られたり

○阿漕燒陶器は頗る古雅ふして夙ふ俳人の珍重する所ふり

○竹籃は俗に津籃と稱するものふして其製堅固ふして魚肆蔬店ふ多く賞用せらる

○鶴の巣籠、福壽煎は養老軒氏製菓ふして磯の花い松屋正

群産
接連

富に製菓なり孰れも風味極めて宜しく茶前酒後ゐは缺く可からざる良品なり

○阿漕餅は達磨軒の製する所なり其味頗る甘美にして滋養分ゐ富めり

○松露は本市海濵の松林ゐ生する菌蠹にして春秋二季尤も多し其形圓なるものあり楕圓なるものあり膚は紫ゐして肉は白く香氣芬芳清淡にして眞味あり是れ即ち松露の化する所なり故ゐ松露と呼ふ是物絶へて北地ゐ生ずる事なしと云ふ

○魚苗は俗ゴ雜魚と稱す我津接近沿海の特産なり他方に産せざる所のものゴして其味頗る美なり鹽田隨齋翁の詩に魚苗叫賣過長街とあり即ち是を云ふなり

○蛤蜊竹蟶の類も亦海濵に産す其味極めて美なり此他本市は尤も海産物ゐ富む一一贅するに暇あらず

以上記載するの他麹味噌酒醬油鑄物の類亦本市の名産なり

跋

神皐靈區之清淑、古刹名藍之壯麗、其他酒肆肉鋪、歌樓舞閣、戲場之喧嘈、花街之熱鬧、凡風花雪月、四時游觀之樂、使人艷羨不措者、卽吾津之光景也、其所以裝點繁華、潤飾昇平者、一莫有不備、鬱爲東南之佳土、予也生長于此土、目擊繁華之象、沐浴昇平之澤久矣、於是、聊欲鳴其盛、磨破硯、搦秃筆、草此編、將上梓公於世、因請城南兄閱正、又屬謙堂畫史、圖本土名勝尤顯者四景、併土物爲五幀、置之卷中、每畫有題、又係阿兄所撰、及印搨告成、乃跋一言於卷尾

海嶠野間朝次郎識

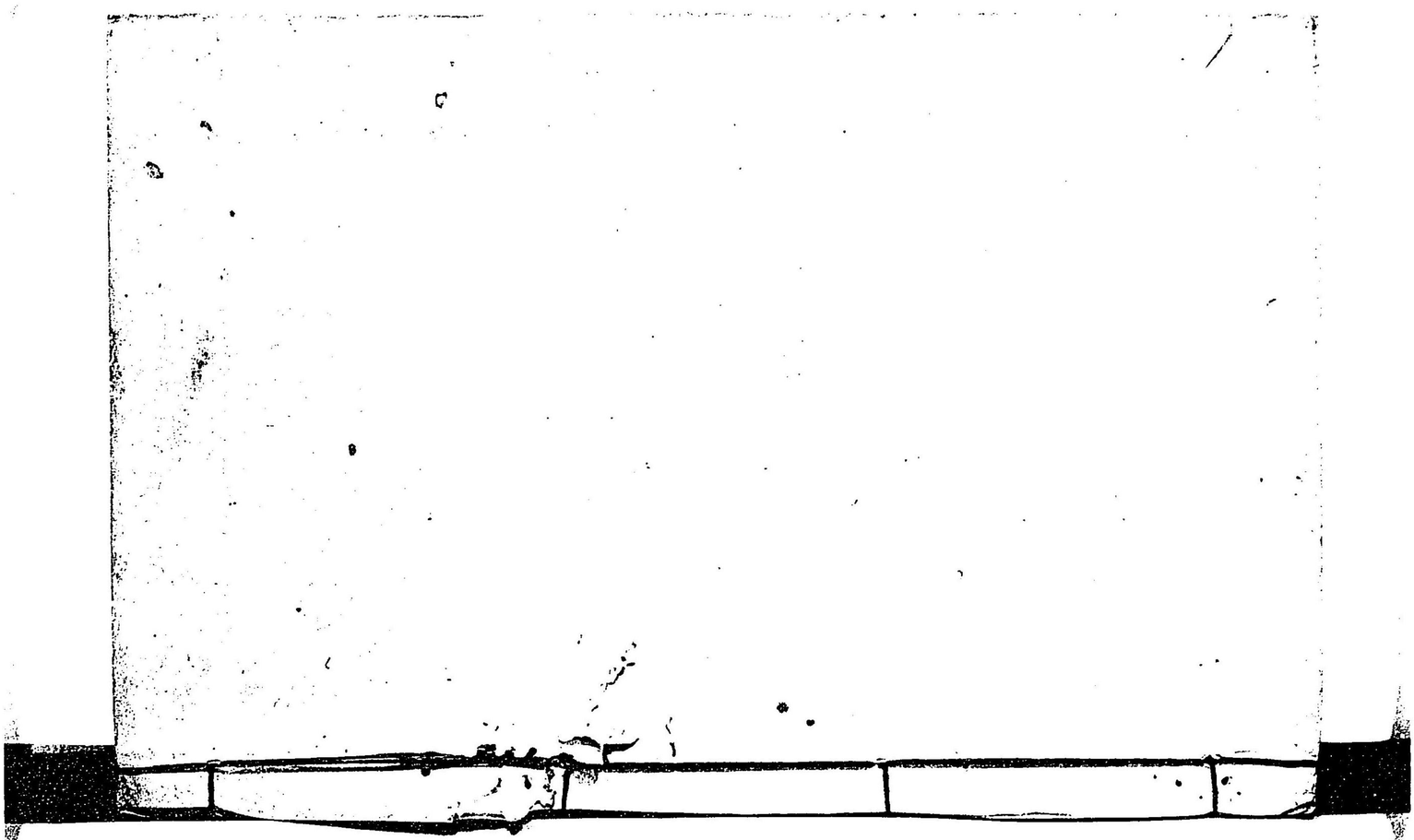
明治廿八年七月廿五日印刷
仝　年八月一日發行

定價金貳拾錢

著作者兼發行者　三重縣津市大字岩田佐伯町十番邸　野間朝次郎

印刷者　仝縣仝市瀧町四番邸　藤田善郎

印刷所　仝縣仝市仝町仝番邸　藤田活版所

版權所有

賣捌書林
津市　友文堂
文化堂
郁文堂
停機堂　豐住書店
溫史堂　淺野書店
萬善堂　此他各地書林